
桃家二代目 嫌々見参

憂護

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桃家二代目 嫌々見参

【Nコード】

N7676L

【作者名】

憂護

【あらすじ】

桃から生まれた桃太郎。

三匹の獣達を従え、鬼ヶ島に斬り込み鬼達を成敗した。

その、激闘より六十年後のお話し。

鬼の居ない世界

むか〜し むかし…

ジパングが、刀と侍とちょんまげと魍魎魍魎達が世を制していた時代。

桃から生まれたとされる桃太郎という青年が、犬・猿・雉の獣達をお供に、鬼ヶ島に攻め入り鬼達を全滅させジパングに平和をもたらした。

その激闘から六十年後。

平和になったはずのジパング……

しかし、各地で戦国大名達が発起し我の利権と名誉を求め日夜、戦を繰り返していた。

ジパングの民達には、飢饉に疫病…それらから逃れる為に一揆。

そして至る所に、屍 屍 屍。

鬼が栄えた時代が天国に感じれる程にジパングは、荒廃していた。

山の奥の更に奥。滅多に人が立ち入らない原生林に、一つの影が素早く移動している。

「シュツ シュツ ザツ シュツ」

その影は、木々を伝い高速移動を続けている。

「シュツ シュツ ザザーツ！！フィ…アー痛ツツツ」

原生林が少し途切れ日が当たる少し開けた所にその影が突如止まった。

見たところ初老の男である。

「久々に本気出して走ったら腰が砕けそうになったわい…痛ツツツ」

男は、腰に手をあてがいがいながら木々の隙間から見える空を見上げつつ呟いた。

「さてと…しんどいけど始めますかな…」

男は、背中に背負っている籠を降ろすと中から鎖鎌を取り出した。

「ジャラララ」

金属同士が擦れる小気味良い音をたてながら鎖鎌を両手で持ち構えた。表情は穏やかなのだが眼は、鋭い。

「ヒュン ビュン ヒュン ビュン」

鎖鎌を頭上で高速回転させ辺りの木々が暴風に当てられてるかのようになぜかめいた。

「むううん！！ カアッー！！」

男の怒号と共に放たれた鎖鎌は、まるで竜巻のように回転しながら男の周りを大きく一周すると籠の横に、ドサリと大量の芝？がつまれた。

「こんなもんかの。さてっ 帰りますかいの… んっ んんツツツ あれは！！ 松茸！！」男は、光の速さで松茸の生えている木の根本にしがみつき必死に箸で採っている。

「うひひひつ わしの好物なんじゃ。げへへへ。ばあさんは、見るのも大嫌いなんじゃが…まあ…芝？に隠して持って帰ればバレないじゃろ」 ウへへへ さいこー！！」

卑猥で怪しげな笑い声で松茸を必死に搾取しているこの初老の男…

そう、現在の桃太郎である。

一方、清らかな河がながる…片隅…ではなく

荒々しく清流が落ち轟音を立てる滝の滝壺に一人の老女？の姿が見え何かをしている。

その老女の姿… 身の丈 八尺（約2？半） 全身筋肉の鎧に包まれボサボサの長い白髪を後ろで一つに結び眉は無く代わりに犬歯が鋭く伸びている。

まるで般若のような顔である。

「ちい！！！！ きやつら！！！！こんなに、着物を汚しやがつて！！！！」

大老女がそう呟くと籠に入っている洗濯物を両手で掴み上げ、大きなおにぎりを作るように、握りだすと、巨大な着物の玉が出来上がった。

「ハンっ！！」

大老女は、片手で軽々と着物玉を投げ滝上部にブチ当てた。

すぐさま滝上部から清流と共に着物が落ちてくるとそのまま滝壺に吸い込まれた。

「ヒューー すうーッ」

大老女は、空気を肺に溜め胸を大きく膨らませ吐くと同時に

「ドリヤセイイー!!」

「バチューン!!!」

両手を、水面に叩き付けると、水しぶきと共に、洗濯物が飛び出した。数秒であるが滝壺の底がチラツと見えた。

飛び出した洗濯物達は、両手を広げて待っている大老女の胸に綺麗に落ち積もる。

「さあて、仕上げだ」

再び深呼吸をすると今度は、呼吸を止め出した。

みるみるうちに大老女の体が赤くなり熱を帯び始めた。

「ジュッ シュワー」

大老女に、抱かれた洗濯物達は一気に水蒸気をあげカラツカラに乾いた。

滝壺近くの岩に、正座をし巨大な手で着物を丁寧に折り籠にしまい込んでいる。その時の表情は、やや穏やかに見え優しいゴツいだけのお婆さんに見えなくもない。

だが、次の瞬間！！！！

水中にキラリと光る物を、老女は見過ごさなかった。

素早く立ち上がると、壁に立て掛けて置いた刀身六尺（約1？80）の出刃包丁を掴むと力任せに水中に突き刺した。

水中には、赤い血がジワーっと広がり辺りを赤く染めた。

ゆっくり水中から取り出された出刃包丁には、超巨大な川魚が貫かれ息絶えている。恐らくこの滝壺の主であろうか。

「晩飯！！討ち取ったりー！！ってか！！ぎやはははは！！！！
あのじじいは、魚嫌いだが！！なあに文句なんぞ言わせねえ！！！」
巨大な川魚の尾を片手で持ち雄叫びを上げた。（川魚をそうして見ると通常サイズにしか見えな…）

そう、何を隠そうこの大老女は…

桃太郎の妻 おヨネさんである。

そして、大きな桃がドンブラ イベントは発生しませんでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7676l/>

桃家二代目 嫌々見参

2011年1月27日08時21分発行